

EUROPEAN PATENT OFFICE

Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 2001192038
PUBLICATION DATE : 17-07-01

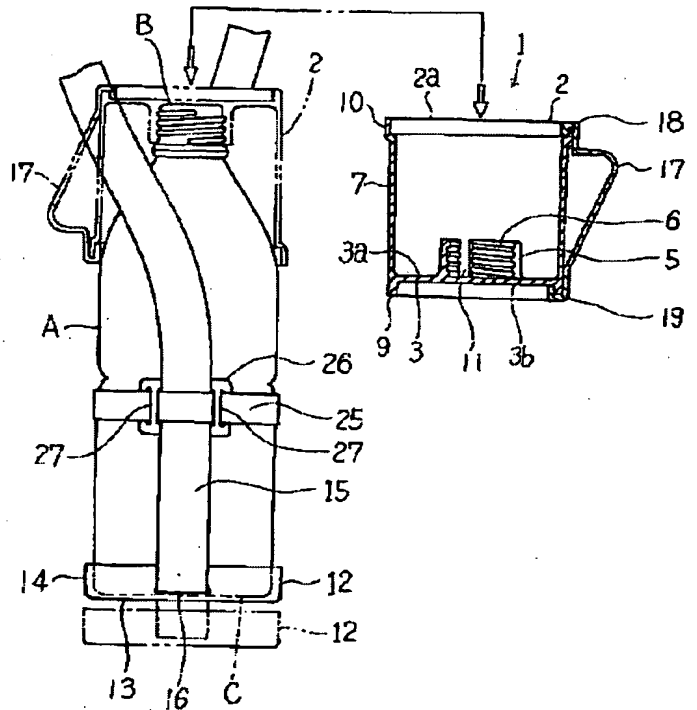
APPLICATION DATE : 07-01-00
APPLICATION NUMBER : 2000001947

APPLICANT : BANDAI CO LTD;

INVENTOR : TAKAO DAIKI;

INT.CL. : B65D 25/22 A45C 13/30 B65D 41/26
B65D 51/24

TITLE : PET BOTTLE CONTAINER



ABSTRACT : **PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide a PET bottle container which can be detachably mounted on a mount of a PET bottle, wherein the PET bottle can be stably carried by using a lid, and the PET bottle can be modified into a form as a canteen.

SOLUTION: The PET bottle container 1 has a container body 2 for receiving drinking water, and a protrusion 5 having a thread 6 to be fitted to the mouth B of the PET bottle A is provided on a base 3a of the container body 2. The PET bottle A can be placed on the lip 12 of the container body 2 and is equipped with carry bands 15 on both sides. The protrusion 5 has a draining port 11. The container body 2, has in its inside a handle 17 to be detachably mounted on the body 2, an auxiliary band 25 to be attached to the PET bottle A and a coupling device 26 for coupling the carry band 15 to the auxiliary band 25.

COPYRIGHT: (C)2001,JPO

This Page Blank (uspto)

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-192038

(P2001-192038A)

(43) 公開日 平成13年7月17日 (2001.7.17)

(51) Int.Cl.⁷

識別記号

F I

テームト* (参考)

B 6 5 D 25/22

B 6 5 D 25/22

Z 3 E 0 6 2

A 4 5 C 13/30

A 4 5 C 13/30

B 3 E 0 8 4

B 6 5 D 41/26

B 6 5 D 41/26

C

51/24

51/24

審査請求 有 請求項の数 7 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2000-1947 (P2000-1947)

(22) 出願日 平成12年1月7日 (2000.1.7)

(71) 出願人 000135748

株式会社バンダイ

東京都台東区駒形2丁目5番4号

(72) 発明者 金子 健児

東京都台東区駒形2丁目5番4号 株式会社バンダイ内

(72) 発明者 高尾 大樹

東京都台東区駒形2丁目5番4号 株式会社バンダイ内

(74) 代理人 100081363

弁理士 高田 修治

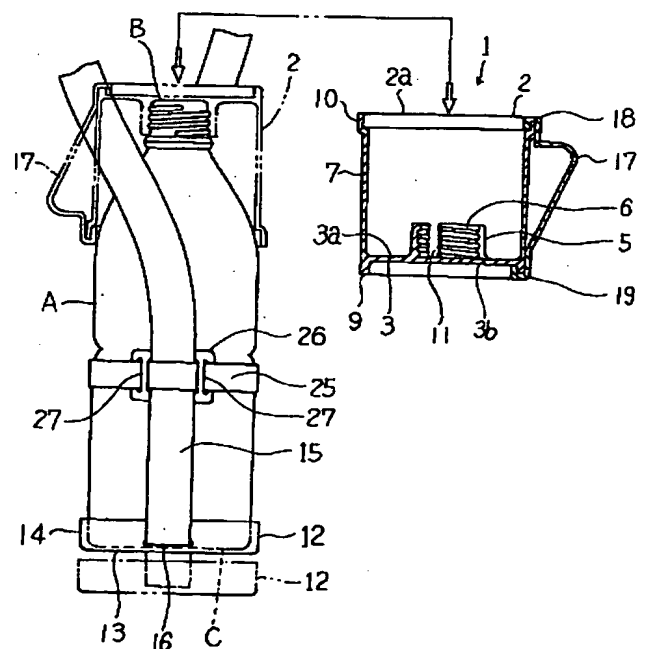
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ペットボトル用容器

(57) 【要約】

【課題】 ペットボトルの口部に着脱自在に取り付けることができ、蓋を利用して、ペットボトルを安定して持ち運びでき、ペットボトルを水筒の如き形態に変えることができるペットボトル用容器を提供する。

【解決手段】 ペットボトル用容器1は、飲料水を収容する容器本体2を有し、容器本体2の底部3aには、ペットボトルAの口部Bに取り付けられるネジ部6が形成された突出部5が設けられている。容器本体2の蓋部12は、ペットボトルAを載置することができ、両側に携帯用バンド15が取り付けられている。突出部5には、水抜き口11が形成されている。容器本体2内には、容器本体2に着脱自在に取り付けられる取っ手17と、ペットボトルAに取り付けられる補助バンド25と、補助バンド25に携帯用バンド15を連結する連結具26が収容されている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 飲料水を収容する容器本体の底部には、ペットボトルの口部に取り付けられるネジ部が形成されていることを特徴とするペットボトル用容器。

【請求項2】 下記の要件を備えたことを特徴とするペットボトル用容器。

(イ) 飲料水を収容する容器本体を有すること。

(ロ) 容器本体の底部には、内側に向かって突出部が形成されていること。

(ハ) 突出部には、ペットボトルの口部に取り付けられるネジ部が形成されていること。

【請求項3】 突出部には、突出部内に飲料水が溜まらないように、水抜き口が形成されていることを特徴とする請求項2記載のペットボトル用容器。

【請求項4】 下記の要件を備えたことを特徴とする請求項1、2又は3記載のペットボトル用容器。

(イ) 容器本体には、蓋部が着脱自在に設けられていること。

(ロ) 蓋部は、ペットボトルを載置することができ、両側に携帯用バンドが取り付けられていること。

【請求項5】 下記の要件を備えたことを特徴とするペットボトル用容器。

(イ) 容器本体には、蓋部が着脱自在に設けられていること。

(ロ) 蓋部は、ペットボトルを載置することができ、両側に携帯用バンドが取り付けられていること。

【請求項6】 容器本体内には、容器本体に着脱自在に取り付けられる取っ手が収容されていることを特徴とする請求項4又は5記載のペットボトル用容器。

【請求項7】 容器本体内には、ペットボトルの略中央に取り付けられる補助バンドと、この補助バンドに携帯用バンドを連結する連結具が収容されていることを特徴とする請求項4、5又は6記載のペットボトル用容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は市販のペットボトルに着脱可能な容器に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来ペットボトルは、口部の周囲にネジ部が形成され、この口部にキャップが取り付けられ、内部に水、茶、ジュース、炭酸水等の飲料水が収容されていた。また、従来のコップ等の容器は、底壁と、底壁の周囲に形成された周壁とからなり、ペットボトル等の飲料水を収容できるようになっていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 従来ペットボトルは、キャップを外して、口部から飲料水を直接飲むことが多く、飲料水が飲みきれない場合には、再度キャップを口部に取り付けるようになっており、このペットボトルの飲料水を収容する容器を備えてはいなかった。そのた

め、口部から飲料水を直接飲むことが苦手な人や幼児には、別にコップ等の容器を準備しておく必要があるが、ペットボトルと共に容器を持ち運ばなければならず、極めて面倒であるという問題点があった。

【0004】 また、ペットボトルは、携帯が不便であり、最近では口部に紐を結び付け、その紐を首に引っ掛けて、首からぶら下げるようにしているが、ペットボトルがこの紐から外れ、落としてしまうという問題点があった。

【0005】 本願発明は、上記問題点に鑑み案出したものであって、ペットボトルの口部に着脱自在に取り付けることができるペットボトル用容器を提供することを第1の目的とする。また、蓋を利用して、ペットボトルを安定して持ち運びできるようにすることができるペットボトル用容器を提供することを第2の目的とする。さらに、ペットボトルを水筒の如き形態に変えることができるペットボトル用容器を提供することを第3の目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】 請求項1記載の発明に係るペットボトル用容器は、上記第1の目的を達成するため、飲料水を収容する容器本体の底部に、ペットボトルの口部に取り付けられるネジ部が形成されている。

【0007】 請求項2記載の発明に係るペットボトル用容器は、上記第1の目的を達成するため、下記的手段を有する。

(イ) 飲料水を収容する容器本体を有すること。

(ロ) 容器本体の底部には、内側に向かって突出部が形成されていること。

(ハ) 突出部には、ペットボトルの口部に取り付けられるネジ部が形成されていること。

【0008】 請求項3記載の発明に係るペットボトル用容器は、上記第1の目的を達成するため、上記突出部に、突出部内に飲料水が溜まらないように、水抜き口が形成されている。

【0009】 請求項4、5記載の発明に係るペットボトル用容器は、上記第2の目的を達成するため、下記的手段を有する。

(イ) 容器本体には、蓋部が着脱自在に設けられていること。

(ロ) 蓋部は、ペットボトルを載置することができ、両側に携帯用バンドが取り付けられていること。

【0010】 請求項6記載の発明に係るペットボトル用容器は、上記第3の目的を達成するため、上記容器本体内部に、容器本体に着脱自在に取り付けられる取っ手が収容されている。

【0011】 請求項7記載の発明に係るペットボトル用容器は、上記第3の目的を達成するため、上記容器本体内部に、ペットボトルの略中央に取り付けられる補助バンドと、この補助バンドに携帯用バンドを連結する連結具

が収容されている。

【0012】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を図面を用いて説明する。図1は、本発明に係るペットボトル用容器の実施の形態を示す要部切欠側面図である。図2は、図1のペットボトル用容器の平面図である。図3は、図1のペットボトル用容器の全体分解斜視図である。図4は、蓋を閉めた状態のペットボトル用容器の全体斜視図である。

【0013】ペットボトル用容器1は、飲料水を収容する容器本体2を有する。容器本体2の底部3aには、内側に向かって突出部5が形成されている。突出部5には、ペットボトルAの口部Bに取り付けられるネジ部6が形成されている。即ち、容器本体2は、合成樹脂によって一体成形され、円板状の底壁3と、底壁3の周囲に形成された筒状の周壁7とからなり、ペットボトルAの飲料水を収容できるようになっている。

【0014】容器本体2は、底壁3の下面3b周縁に環状の下脚9が形成され、周壁7の上縁に係止縁10が形成されている。底壁3の上面3a、即ち底部3aには、筒状に突出した突出部5が形成され、この突出部5の内側に上記したようにネジ部6が形成されている。

【0015】突出部5には、突出部5内に飲料水が溜まらないように、水抜き口11が形成されている。水抜き口11は、略コ字状の切り欠きによって形成され、等間隔で突出部5の3ヶ所に設けられている。

【0016】容器本体2には、蓋部12が着脱自在に設けられている。蓋部12は、ペットボトルAを載置することができる。両側に携帯用バンド15が取り付けられている。即ち、蓋部12は、円板状の上壁13と、上壁13の周縁に形成された係止壁14とからなり、この係止壁14が容器本体2の係止縁10に係止されて、容器本体2の開放部2aを塞ぐようになっている。係止壁14の対向する両側には係止穴16、16が形成され、この係止穴16、16に携帯用バンド15の両端が係止されている。

【0017】容器本体2内には、容器本体2に着脱自在に取り付けられる取っ手17が収容されている。取っ手17は、容器本体2内に収容できる大きさで、合成樹脂によって略ハの字状に一体形成されており、両端に略コ字状の係止部18、19が形成されている。取っ手17の上側の係止部18は、容器本体2の係止縁10に形成された嵌合凹部20に嵌合して動かないように規制され、係止縁10に係止される。取っ手17の下側の係止部19は、容器本体2の下脚9に形成された嵌合凹部21に嵌合して動かないように規制され、下脚9に係止される。なお、取っ手17は、素材の弾性により変形することが可能であり、両係止部18、19を拡げるようにして、係止させることができる。

【0018】容器本体2内には、ペットボトルAの略中

央に取り付けられる補助バンド25と、この補助バンド25に携帯用バンド15を連結する連結具26が収容されている。補助バンド25は、環状に形成され、摺動自在に連結具26が取り付けられている。連結具26は、軟質合成樹脂等によって薄板状に形成され、両端に補助バンド25が縫うように挿通される挿通孔27、27が形成されている。前記携帯用バンド15は、挿通孔27、27間の補助バンド25と連結具26間に通すようにして、補助バンド25に連結されている。

【0019】ペットボトル用容器1は、上記構成を有し、不使用時には図4に示すように、容器本体2の内部に取っ手17と携帯用バンド15と補助バンド25と連結具26が収容され、容器本体2の開放部2aが蓋部12によって塞がれている。

【0020】ペットボトル用容器1は、次のように使用することができる。容器本体2から蓋部12を外し、図3に示すように、容器本体2の内部から取っ手17と携帯用バンド15と補助バンド25と連結具26を取り出す。取っ手17の上側の係止部18を、容器本体2の嵌合凹部20に嵌合するようにして、係止縁10に係止し、下側の係止部19を下脚9の嵌合凹部21に嵌合するようにして、下脚9に係止する。このようにして、取っ手17は、容器本体2に移動不能に取り付けられる。なお、取っ手17の下側の係止部19は、嵌合凹部21に嵌合するため、下脚9から突出しないので、容器本体2を安定して置くことができる。

【0021】ペットボトルAを環状の補助バンド25に通して、ペットボトルAの底部Cを蓋部12の上壁13の内側に載置する。ペットボトルAは、底部C周縁が蓋部12の係止壁14によって保持されるため、蓋部12に安定して載せられ、さらに略中央部が補助バンド25によって保持されるので、携帯用バンド15に安定して取り付けられる。

【0022】容器本体2は、ペットボトルAの口部Bからキャップを外し、この口部Bに容器本体2の突出部5に形成されたネジ部6を螺合して、ペットボトルAに着脱自在に取り付けることができる。このようにすると、ペットボトルAは、あたかも水筒のような形となり（図1参照）、携帯用バンド15を首に引っ掛けて、水筒のように持ち運びをすることができる。

【0023】容器本体2を回転させると、ペットボトルAの口部Bから容易に容器本体2を外すことができる。容器本体2の取っ手17を握り、この中にペットボトルAの飲料水を入れ、飲むことができる。突出部5には、水抜き口11が形成されているので、突出部5内に飲料水が溜まらない。容器本体2は、ペットボトルAの口部Bにネジ部6を螺合して、ペットボトルAに再度取り付けることができる。

【0024】上記実施の形態では、容器本体2は、ペットボトルAの口部Bに螺合するようにして取り付けられた。

が、図5に示すように、突出部5を取り除き、キャップDを取り付けたまま、このキャップDを覆うようにしてペットボトルAに取り付けることもできる。容器本体2は、開放部2aの内径をペットボトルAの胴体の外径程度にしておけば、ペットボトルAに安定して取り付けることができる。

【0025】また、容器本体2は、図6に示すように、底部3aにキャップDの周縁に係合する係合突出部5aを突設すれば、キャップDに安定して支持される。さらにまた、容器本体2は、図7に示すように、底部3aにキャップDを圧着する圧着突出部5bを形成し、キャップDに圧着して取り付けられるようにしても良い。このようにすれば、容器本体2とキャップDが一体となり、容器本体2を回転させるだけで、ペットボトルAの口部BからキャップDを外すことができる。

【0026】

【発明の効果】以上説明してきたように、請求項1記載のペットボトル用容器は、飲料水を収容するコップとして使用することができ、さらにペットボトルのキャップとして使用することができるという効果がある。そのため、ペットボトルにキャップとして使用していれば、別個にコップ等の容器を用意しておく必要が無く、ペットボトルの口部から直接飲むことを苦手に行っている人にとって、極めて便利であるという効果がある。

【0027】請求項2記載のペットボトル用容器は、上記効果に加え、容器本体の底部の内側に、ペットボトルの口部に取り付けられるネジ部が形成された突出部が設けられているので、底壁から下側に突出することが無く、安定して載置させることができるという効果がある。

【0028】請求項3記載のペットボトル用容器は、上記効果に加え、突出部に水抜き口が形成されているので、飲料水が突出部内に溜まることを防ぎ、容器本体内の飲料水を完全に飲むことができるという効果がある。

【0029】請求項4、5記載のペットボトル用容器は、容器本体の蓋部を利用して、ペットボトルを載置することができ、蓋部の両側に携帯用バンドが取り付けられているので、首、肩等に携帯用バンドを引っ掛けてペットボトルの持ち運びをすることができるという効果がある。

【0030】請求項6記載のペットボトル用容器は、上記効果に加え、容器本体内に取っ手が収容されているので、この取っ手を利用して容器本体を安定して持つことができるという効果がある。

【0031】請求項7記載のペットボトル用容器は、上記効果に加え、容器本体内にペットボトルの略中央に取り付けられる補助バンドと、この補助バンドに携帯用バンドを連結する連結具が収容されているので、これを利用してペットボトルをあたかも持ち運びの便利な水筒のような形にすることができるという効果がある。なお、

ペットボトル内の飲料水がなくなっても、ペットボトル内に水道の水、お茶等を入れて、簡易水筒にして何度でも使用することができるという効果もある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るペットボトル用容器の実施の形態を示す要部切欠側面図である。

【図2】図1のペットボトル用容器の平面図である。

【図3】図1のペットボトル用容器の全体分解斜視図である。

【図4】蓋を閉めた状態のペットボトル用容器の全体斜視図である。

【図5】本発明に係るペットボトル用容器の他の実施の形態を示す要部切欠側面図である。

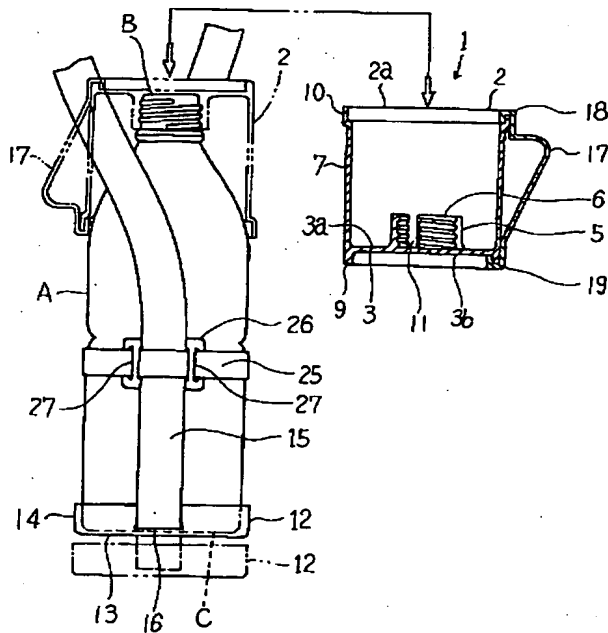
【図6】容器本体の他の実施の形態を示す要部斜視図である。

【図7】容器本体の他の実施の形態を示す要部斜視図である。

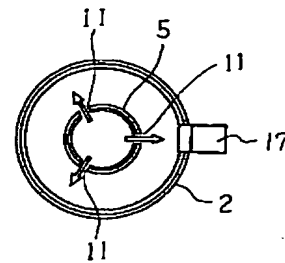
【符号の説明】

- A ペットボトル
- B 口部
- C 底壁
- D キャップ
- 1 ペットボトル用容器
- 2 容器本体
- 2a 開放部
- 3 底壁
- 3a 底部
- 3b 下面
- 5 突出部
- 5a 係合突出部
- 5b 圧着突出部
- 6 ネジ部
- 7 周壁
- 9 下脚
- 10 係止縁
- 11 水抜き口
- 12 蓋部
- 13 上壁
- 14 係止壁
- 15 携帯用バンド
- 16 係止穴
- 17 取っ手
- 18 係止部
- 19 係止部
- 20 嵌合凹部
- 21 嵌合凹部
- 25 補助バンド
- 26 連結具
- 27 挿通孔

【図1】

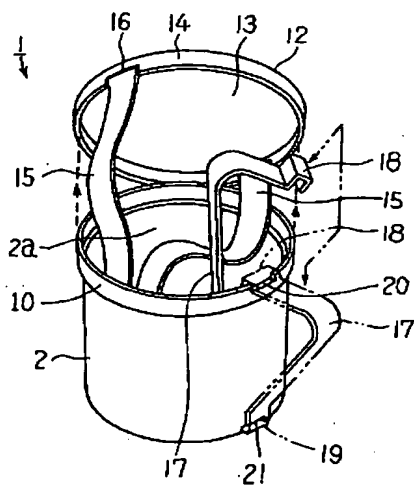


【図2】

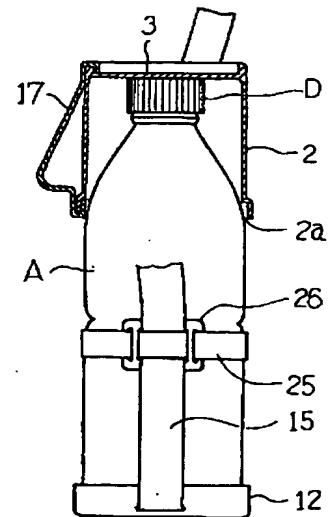
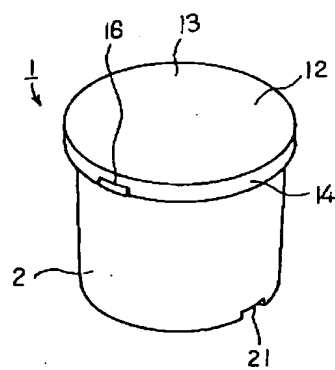


【図5】

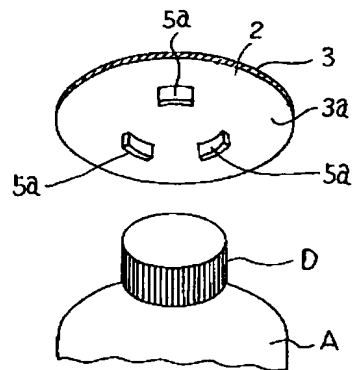
【図3】



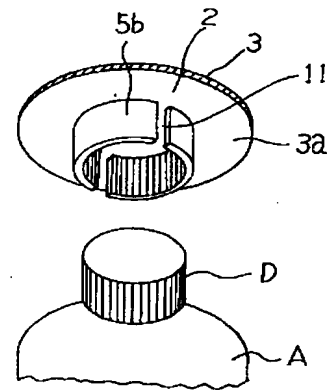
【図4】



【図6】



【図7】



フロントページの続き

Fターム(参考) 3E062 AA10 AB02 AB07 GA01 GA05
GC02
3E084 AA04 AA12 AA24 AB01 BA02
CA01 CC03 DA01 DB09 DB12
DB20 DC03 FA09 FB01 GA04
GB04 KB01 LA17